

第2回県立横浜南陵高等学校 学校運営協議会 実施報告

日時 令和6年11月21日(木)10時～
場所 県立横浜南陵高等学校 会議室

司会進行：副校長

1. 校長より
意見を聞く時間を取るため、授業見学はなし
2. 議題
令和6年度学校評価報告書（中間まとめ）

【学習支援グループより】

学習機会の保障を進めている。

観点別評価について…教科横断的な学習の研修実施予定。

自学自習について…学習習慣が根付き始めている。

Q, 学習機会の保障とは

A: 入院生徒や不登校生徒に対しても学習の機会をつくる

Q, 自学自習について、工夫していることは

A, 課題を与えて、徐々に自身でできるように。

Q, できない生徒には？

A, 粘り強く

Q, 中学ではAIドリルを始めているが、高校では？

A, Classiを導入している。まだ使いこなせていないが、継続していく。

【研究広報グループより】

広報…本校の魅力や特色を伝えている。

研究…総合、授業改善、職員研修等

スクール・ソーシャル・レスポンスビリティ

総合について…現状、調べ学習で終わっている

→探究に繋げていきたい日野特支と連携して「幸せとは何か」を行っている

広報…学校説明会を年3回、毎回コンセプトを変えている。

学校キャラクターについて…学内公募でキャラクターを決定し、教員がぬいぐるみ化した。1位以外のキャラクターも有効活用したい。インクルーシブ生徒のキャラクターが2位。

Q インクル見学の感触は？

A, 好感触

【生活支援グループより】

生活指導と教育相談について…家庭環境を踏まえた上での生活指導を行っている。

成年年齢引き下げに伴い、児童相談所だけでなく、警察との連携もある。今年も 1 件あった。専門資格をもった職員と連携している。担任への相談よりも保健室利用者が多い。

Q 教育相談について…自ら相談に行けない生徒へのフォローは？

A, 面談の数を増やしている。

Q 教育相談に行く生徒は自ら？

A, 養護教諭や教員が状況に応じて SC・SSW に繋げている。かながわサポートドックを使ってプッシュ型面談を実施している。

Q 中学では保護者の SC・SSW の相談が多いが南陵学校は？

A, 高校も同様。予約が埋まっている。保護者からの相談も一定数ある。

【管理運営グループより】

地域貢献活動…日野中央公園での清掃活動の参加人数が増えている。

避難訓練…久しぶりにグラウンドで実施。

DIG…今週末実施予定

スクエアドストレイト実施後、日野中央特別支援学校の裏山のがけ崩れについて現場を見たうえでの説明を行った。

Q, 避難訓練でインクルーシブ生徒に向けた工夫はあるか

A, インクルーシブ生徒向けに特別なことはしていない。

【インクルーシブグループより】

特別募集生徒は 10 名在籍している。

スタート当初、戸惑う生徒もいた。支援担任、学習支援員、担任等の連携が取れている。部活や行事に参加し、充実した学校生活を送っている。

課題点…TT 制度について、もっと深い関わり、効果的な支援ができれば。

Q, 特別募集生徒がいることでの一般生徒へのメリットは？

A, TT によって手厚い指導ができています。

Q, 授業進度は特別募集に合わせているわけではないのか

A, 一般募集の生徒に合わせて授業である。

Q, TT はどの教科、どれくらいの頻度で行っているか

A, 1 年生は国語、数学、理科、英語で行っているが学年が上がるにつれ、少しずつ減らしていく。

Q, 連携について詳しく

A, リソースルームで学習支援員等に悩みを相談。支援担任、担任、学年にも共有。

Q, リソースルームの使用について

A, 特別募集生徒のみ。

【キャリア支援グループより】

Classroomについて

- ・一般受験、推薦受験のチャンネルを分け、効果的な情報提供を行っている。
- ・クラス数増、指定校推薦希望者減→情報提供により、一般受験を諦めていた生徒が一般にチャレンジできるようになったのでは。

Q 指定校希望者は教員が誘導？

A, ミスマッチを防ぐため、行けるところではなく、行きたいところへの指導

Q インクル生徒の模試等について

A, 同様に行っている。記述模試については検討中。本当に効果があるのか。

Q 就職については？

A, 少数いる。ハローワーク利用、親の縁故など

【活動支援グループより】

行事の企画進行について

- ・体育祭、文化祭を無事に終えることができた。
- ・実行委員、主体的協働的に活動できた。自己肯定感を高めるサポートができた。

生徒会活動について

- ・意見箱をデジタル化

Q, インクルの生徒が欠席せずに参加できている工夫はあるか

A, 特別な取り組みはないが、一般の生徒と同じように楽しめる行事を企画している。

【校長より】

評議委員の方からの質問が次の活動へのヒントになった。

学習機会の保障について

- ・様々な問題を抱える生徒がいるが、勉強したいという意欲があるのなら、学習環境を整える。オンライン授業、課題配布の実施。登校が難しい生徒も卒業できる。
- ・夏休みに Classi を利用した課題配信。自由課題であったが、取り組んだ生徒もいた。自学自習ができるよう学習機会を多く設けている。

サポートドックの実施について

- ・アンケート結果をみて、プッシュ型面談を実施。

洋光台キャンドルナイトや地域の夏祭りへのボランティア参加について

- ・自治体との協力体制ができてきた。
- ・地域貢献活動（学校周辺の清掃活動）を行っている。

文化祭について

- ・文化祭＝キャリア教育
- ・収支計算やお客さんに来ていただける工夫を考えるなどをする機会
- ・グラジュエーションポリシーを意識し思いやりを持った行動を

AI と上手に付き合っていく必要がある。生徒の主体性を意識し、ICT 活用をしている。今後、ipad 補充のためにクラウドファンディングを予定している。

3. 質疑応答

Q, 一斉授業に入れない生徒への配慮について

学校ごとに基準を決めているのか。どの県立高校も同じであるのか

A, 県立高校は、どの学校でも取り組みを進めている。私学では進んでいない。文科省で出している考えであるため、私学でも取り組みが広がっていくのでは。

4. 分科会

○地域安全協働部会： 小森委員、宮本委員、田代委員（司会進行：副校長）

【議題：地域貢献について】

委員の方より

- ・高齢化が進んでいる。地域での取り組みを進めていきたい。
- ・様々な行事で、高校生の若い力を発揮してほしい。
- ・日野中央公園でヘリコプターの離発着の訓練、地域防災拠点の訓練、地域ゴルフイベントなどがある。

副校長より

- ・日野中央公園で様々な行事を行っていることを伺った。
- ・美術部とのコラボレーションでなにか企画ができたらと考えている。

委員の方より

Q, 地域貢献をアピールする場は何か考えているか。町内も高齢化が進んでいる。若い人を集める取り組みは何かあるか。

副校長より

A, 地域からボランティアの依頼を受け、生徒へ投げかけている現状。本校は、他校と比較して、積極的に活動を行っている印象がある。

委員の方より

- ・選挙の手伝い、高校生がやってみるのもよいのか。
- ・学校での模擬投票が、選挙に活かせるのでは。

Q, 地域と学校で連携した行事は増えてきているか。コロナ禍をはさんで変化はあったか。

副校長より

A, コロナ禍は人との接触が難しかったが、現在は地域との連携は増えてきている。文化祭の人数制限もほぼない。コロナ禍を過ぎ、元に戻ってきている。学校現場にマンパワーが求められている。地元根付く愛される学校づくりを目指したい。本校は、挨拶ができる生徒が多く誇りに思っている。

○学習キャリア部会：瀬古委員、菊本委員、狩谷委員、松本委員（司会進行：教頭）

【議題：学力向上について】

【中学校】

それぞれの教科において高校入試がある。子どもたちが自ら判断する力、コミュニケーション能力を育むことが重要。特に数学では、様々な学び方を準備し、選択させる授業を行っている。

横浜市全体で一斉に導入される予定の新しい学習システムについては、令和7年度から予算が取れば導入される予定。しかし、急に導入されても対応が難しいため、次年度は併用しながら進める可能性がある。希望校だけでの導入になる可能性はあるが、全ての学校に導入されることを目指している。このシステムでは、子どもの学力に応じて適切な問題を提供することができる。例えば、基礎的なことがわかっていない子には基礎的な問題を、高度な問題が必要な子には高度な問題を提供できる。これにより、子どもたちの学力を伸ばすことができる。

【特別支援学校】

生徒の学力はさまざまであり、個に応じた学習が必要であるため、新学習システムの導入には抵抗がある。生徒たちの気持ちが折れることなく、主体的に学ぶ気持ちを大切にしたい。コミュニケーション能力を高め、社会に出てからも困らない力を育んでいく。

【小学校】

タブレットを使った学習が進められている。子どもたちは登校したら、まずタブレットを取り出し、自分の健康状態を入力する。これにより、学習の取り組み状況を教員が把握しやすくなった。AIドリルも普及しており、市販のペーパーテストやドリルを使うことが少なくなっている。

さらに、タイピングの技能を高めるためのプログラムも導入されている。学力調査も将来的にはタブレットで行われる予定であり、子どもたちが主体的に学ぶ力を育むことができると考えている。

授業では、課題を共有し、自分で考え、共同で取り組み、最後にまとめと振り返りを行うパターンが多く取り入れられている。ICTを使ったプレゼンテーションや発表も

行われており、学習パターンがマニュアル化されている。

【最後に】

校長より

本日いただいた意見を学校運営に活かしたい。

第3回の3月の委員会では、どのような成果があげられたかをお話したい。